

## 環境産業委員会

◆ 視察月日 5月23日～25日

◆ 視察市 兵庫県豊岡市  
京都府舞鶴市

◆ 視察項目

環境経済戦略について  
商業の振興について  
環境にやさしい循環・共生のまちについて  
港の利活用について  
視察の概要

### 環境経済戦略

豊岡市は今年5月に47年ぶりとなるコウノトリの自然ふ化に成功し、マスコミ等の報道で一気に日本中の注目を集めている。そうした中、経済的に自立したまちづくりを進める上で、「環境」は市の持つ最大の資源との考えから、環境をよくする取り組みと経済活動が相互に刺激しあいながら、互いを高め合っていくまちの実現に向け取り組んでいる。

「コウノトリと共生するまちづくり」のため農林水産部をコウノトリ共生部に改め、「県立コウノトリの郷公園」事業により、環境の整備が実施された。周辺の水田約138ヘクタールで無農薬・減農薬栽培に取り組み、収穫された「コウノトリの郷米」は高価格で出荷され、JA担当者は需要が多く幾らでも販売可能とのこと。  
環境をよくすることで経済効果が生まれる。環境が自立するための方法である、と説明を受けたが、本市でもそ

のような取り組みが必要と感じた。



豊岡市・コウノトリ文化館にて

### リサイクルポートとしての今後の取り組み

京都府舞鶴市は天然の良港を抱え、昨年末、本市などとともに国のリサイクルポートの指定を受けた。東港・西港があり、現在は中舞鶴にも埠頭を建設するなど、能代港とは比較にならない規模と貨物量を誇っていた。

西港は現在も韓国・中国・ロシア等と京阪経済圏との間で金属くずや古紙、木材などのコンテナ航路を展開中で、将来的には古紙やペットボトル石炭灰等を中心に取扱品目の拡大を図り、さらにバイオマス変換施設、木くずリサイクル施設等の立地に取り組みとのことであった。

再資源集積施設については、廃棄物受入施設として、既存の臨港地区内にある港湾関連用地の一部を廃棄物処理施設用地に位置づけるとのことであった。能代港の将来目指すべき事例であった。  
(穴山)

## 建設委員会

◆ 視察月日 6月27日～29日

◆ 視察市 三重県伊賀市  
愛知県豊橋市

◆ 視察項目

都市マスタープランについて  
生活排水処理施設整備計画について  
住宅施策と公営住宅の整備事業について  
視察の概要

### 伊賀市都市マスタープラン

伊賀市は平成16年11月に旧上野市と5町村が合併し誕生した。そこで、複数ある都市計画区域を見なおし、方針や適正な土地利用コントロール手法などを、平成19年から3年間かけて、策定を進めている。上位計画である総合計画は合併後の平成17年には制定されている。

策定を進めるにあたり、「策定の手続き」、「中間案」、「最終案」のそれぞれの段階で、広報誌や市ホームページ



伊賀市役所での研修風景

ジを通じてパブリックコメントを実施するほか、地域説明会・地域ヒヤリングを通じてより多くの方々の意見を吸い上げて、今ある資源を有効に利用し、古い町家を利用した個性あるまちづくりなど、地域特性を高めながら魅力ある都市形成を計画している。

また、中心市街地活性化法による基本計画を策定し認定を目指している。

### 豊橋市の公営住宅整備事業

豊橋市は人口が38万人の太平洋ベルト地帯の中間に位置する恵まれた地理条件の「中核市」である。自動車の輸入では14年間連続日本一を続けている。一般会計は1100億円の予算額であり、地方交付税に依存しなくてよい体力ある都市である。

市営住宅はおよそ4000戸である。そのうちのコレクティブ・ハウジングつまり協同居住型住居を視察した。居住者が集える共用部分があり、フロアリングの廊下で各住宅がつながっている、現代風の長屋住宅である。この住宅には、住宅施策の基本目標にもある環境共生のための太陽光発電による省エネ設備や共用部分には地元産木材の三河材を活用した工夫がされていた。また高齢者対応においては、コミュニケーション機能を高め、人とのふれあいを自然な形で可能にしたものであるが、プライバシーを尊重する居住者も多く、成功とはいえない部分もあるようだ。  
この実験住宅を含め、住宅政策の苦悩と試行錯誤が感じられた。  
(田中)